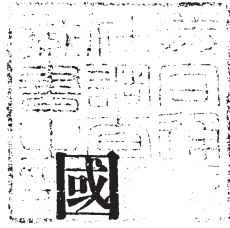


國通十年史



滿洲國通

滿洲國通信社編



國
通
十
年
史



康德九年十二月一日刊

『國通十年史』に題す

十年といふ歲月は、一つの組織體の生活過程として決して長いものとは考へられない。殊に刻々の情報を中心に、不斷に發展し前進しなければならない我々通信社の立場よりする關心は、當然今日の上に在りまた明日、明後日の上に在る。従つて我々は今、國通の歴史を編纂しようとは考へてゐない。

我々が今日、如何なる環境に在るかに就いても今さら説明を必要としない。振古未曾有の此の迅風怒濤時代に在つて、大東亞報道戰線の重要な一翼を受持つ所の「滿洲國通信社」として、我々は如何にして此の重責を果すかに日夜心魂を碎いてゐるのであつて、いま此處に歩を止めて十年の過去を反芻し、その回想の中に徘徊するの餘裕は持たないのである。

併し乍ら、我々は又「國通」の今日あるは、その背後に連る過去十年の歴史に負ふところ大なることを肝に銘じて識つてゐる。創業時代に相當する最初の十年の經驗が、今後直面すべき幾多の問題解決の上に示唆を與へる所少くないであらうことをも知つてゐる。更に又、此の十年の間に示された先輩や同志の奮闘と献身の事實、また關係諸當局の識見と配慮とが、今日現に國通人として報道報國に挺身する我々にとつて、替へ難き力となつてゐることをも亦、日常の體驗を通じて我々は切實に感じてゐるのである。

『國通十年史』の編纂が國通の自叙傳として企てられたものでないことは、以上述べた所で明であらう。

國通は創立僅に十年、未だそれを矜る程の年齢でもない。のみならず我々は日々の仕事自體によつて國通の歴史を築いて行かなければならない。首尾整つた一つの歴史を編むといふ點からしても十年の歲月と經驗とは餘りにも短か過ぎる感がある。輕重を正當に量り、遠近を正しく透視するのに我々は餘りに對象に近く、また屢々その中に没入してさへゐるからである。

併し、滿洲建國十年にして『第二建國』の聲を聞く。國通にも創業十周年の記念の日を迎へるに際して新たな覺悟は無ければならない。滿洲建國の情熱が『第二建國』の叫びの基調をなしてゐるが如く、幾多苦艱缺乏に耐へた我等國通の先蹤者達の氣魄と勇猛心とは、我々をして反省せしめ奮起せしめるのである。『十年史』は此の意味での謂はば國通使命確認の爲めの一資料として編纂せられたのである。資料集成としては甚だ不完全乍ら、散逸に瀕してゐた國通草創時代に屬する貴重なる資料若干を輯録し、當時の關係者の手記の幾つかを併せ載録し得たことは幸ひであつた。急忙の際編輯者の希望を容れて稿を寄せられた之等先輩に厚く謝意を表する次第である。

國通の今日あるが爲めには如何なる方面より如何なる寄與がなされ來つたかを明かにすることにより幾多朝野の先輩知己に對する日頃の感謝の念を新たにし度いといふ一事は、此の書の企劃に當り、所期した所の一つであつた。併し結果に於いては、我々の意圖した極めて一部分を實現し得たに過ぎなかつた。その全貌を明にするには、何れにしても此の書の何倍かの紙數を必要とするであらう。滿洲事變に續く風雲時代に、滿洲國を護り、その存在を中外に闡明する爲めの武器として生れた國通は、その成立の事情

からしても廣く朝野の支持を受ける理由を持つてゐたのである。併しこれ等の事柄については、一國通の歴史としてではなく、大東亞報道戰史上の重要な一章として、他日物語られることであらう。

従つて此の機會に於いては國通を育成し來り、また現に今日國通を取巻いてゐる之等各方面の好意と支持とに對し、衷心感謝の意を表すると共に、粉骨碎心以つてその負託に副ふべきを誓つて些か題する次第である。

康德九年十一月

滿洲國通信社理事長

松 方



序

滿洲建國十周年の佳歲は、恰も我か滿洲國通信社創立十周年に相當する。言ひ換れば滿洲國通信社は實に大滿洲帝國と齡を同じくし歩調を合せて發展し充實されて來たわけである。十年の星霜決して長い歲月ではない。その間における我が滿洲國通信社の發展經過はまた決して坦々たる平路ではなく、幾多荆棘の垣は重疊してゐたのである。けれども創立當時の諸先輩が日夜寢食を忘れて社基の地固めと將來の方途確立とに文字通り血みどろの活躍奮闘を續け、内には軍・官憲の絶大なる指導と援助とを經とし、外には同盟通信社の一體的協力を緯とし、國策通信社としての使命達成に不退轉の氣魄を強整して邁進し來れる結果は、創立後數年ならずして世界通信聯盟の一員として押しも押されぬ強力なる地歩を確保するに至り、勃然として動亂世界の眞只中に雄飛するを得たのである。想へばまた數奇の感なき能はぬものがある。我らの滿洲國通信社成りて滿十年。未だ以て歴史を語るに足るものありとはせぬが、茲に創立十周年記念を迎へ國通小史を編纂せる所以のものは、資料の逸脱とか乃至舊き關係者の四散などを憂へ、この機會に一應取纏めておくことは必ずしも徒爾に非ずと信じ、同人諸君が苦心蒐集せる資料に基いて「國通十年史」を上梓するに至つた次第である。この冊子もとより完全なるものとは考へぬが、次の機會に完成せしむる一階梯として編んだ、とするのが打割つた肚である。幸ひに各位におかれても御氣付の點あらば忌憚なき御叱正を賜はりたく、同時に更に有用なる資料を保存さるゝならば之が貸與を乞ひ、我が滿洲國通信

社の尊き歴史を曠古に貽したい念願である。

なほ本書編纂に當り、創立當時の功勞者たる臼田寛三氏、里見甫氏、加藤新吉氏、佐々木健兒氏の各位が忙中をも厭はず回想記を寄せられたることは、本書に大いなる光彩を添へたと同時に國通精神を明かにされたもので洵に深謝に堪へない。また社内編纂委員諸君が小閑を偷みては資料の整理に、執筆にと協力せられたるは、之また感謝に堪へぬところである。

康德九年十一月新嘗祭の日

「國通十年史」編纂委員長

寒 河 江 堅 吾

國通十年史目次

國通十年史に題す(理事長 松方義三郎)……………一

序 (國通十年史編纂委員長 寒河江堅吾)……………五

第一章 創業回顧篇

一 國通創立の素因(白田寛三氏)……………一三

二 創立の前後譚(里見 甫氏)……………一六

三 記憶を辿る(加藤新吉氏)……………二四

四 國通の神話を語る(佐々木健兒氏)……………二八

五 岩永意見書(滿蒙通信社論)……………三九

第二章 沿革及現勢

一 緒言……………四五

二 國通創立の経緯……………四六

三 創業時代(創立より弘報協會
設立参加に至る間)……………五〇

一、創立當初の陣容 二、國通の社格 三、日本及支那に支社局新設 四、弘報協會の設立と國通

四 獨立組織の確立(株式會社とし
ての發足時代)……………五七

一、各種業務の飛躍的發展 二、同盟との提携成る 三、新社屋竣工と運営合理化

五 新態勢下の國通（特殊法人として）

..... 六四

一、滿洲國通信社法に據る編組 二、國通機構及幹部一覽表（附・歷代主宰者及歷代幹部名一覽）

第三章 支社局概況

一 概 説

..... 七五

二 支社の發展概況

..... 七八

三 支局、特派員、通信員

..... 八三

一、各支局の發展概況 二、特派員及び通信員

四 蒙疆支社の概況

..... 九一

第四章 通信網の發達

一 創業時代の通信施設

..... 九九

一、創立の経緯 二、熱河戰從軍の無電班 三、大東通信社の創設

二 無電施設の電々移管

..... 一〇九

一、電々會社移管の経緯 二、移管問題の解決 三、移管當時の無電施設 四、移管後の運営及支那事變

三 専用電話線と寫眞電送

..... 一二二

一、國內専用電話開通 二、日鮮滿専用電話開通 三、寫眞電送施設成る 四、鳩通信及對外放送

四 國通通信施設の現狀

..... 一二九

五 蒙疆支社局の通信施設

..... 一三四

六 附 錄 (無電班員從軍記)	一三六
-----------------------	-----

第五章 報道十年誌

一 國內重要ニュース年表	一五三
二 蘇炳文事件と國通の初陣	一六〇
三 熱河聖戰と國通社礎	一六六
四 帝政實施と總理訪日	一七七
一、帝政の實施 二、卿國務總理大臣の訪日	
五 皇帝陛下の御訪日	一八一
一、第一回御訪日 二、第二回御訪日	
六 康德四・五年の項	一八六
一、乾岔子島事件と對外宣傳 二、遭歐經濟修交使節隨行	
七 張鼓峰事件の想出	一九〇
八 ノモンハン事件回想	一九九
九 支那事變と國通の戰歴	二〇二
一〇 大東亞戰と建國十周年	二一四
一、大東亞戰と國通 二、建國十周年記念行事	
一一 報道寫眞班の活動	二一九

第六章 事業及附帶業務

一 緒 言	二二五
-------	-----

二 諸國通信の發行概況	二二七
-------------	-----

一、時事通信の發行現況	二二七
二、特殊通信の發行現況	二二七

三 附帶業務の概況	二三七
-----------	-----

四 國通印刷所概況	二四〇
-----------	-----

附 錄

一 國通社員會の概況	二四五
------------	-----

二 物故社員一覽（康德五年以降）	二五〇
------------------	-----

特別資料篇

一、滿洲國通信社法	二五四
-----------	-----

二、滿洲國通信社定款	二五八
------------	-----

三、滿洲國通信社職制（附・支社暫定職制）	二六〇
----------------------	-----

寫 眞	（第二章本文前）
主 要	（第三章本文前）
目 次	（第四章本文前）
歷代主宰者・新舊社屋内外・現幹部（本社）	（第四章本文前）
支社局長・支社局社屋外觀	（第五章本文前）
通信施設の一部・内外通信網略圖	（第六章本文前）
取材報道に關する主要寫眞（報道十年誌）	（第六章本文前）
業務及印刷所・國通社員會諸行事	（第六章本文末）